（様式１－１）

令和６年度　学校評価報告書

大牟田市立天の原小学校　ＮＯ１

学校教育目標	志を持ち、自ら考え行動できる児童の育成	重点目標	目標をもって学ぶ子どもの育成（ ㊙考えをつくる ㊙力を合わせる ㊙粘り強く取り組む）

	評価計画				自己評価		学校関係者評価		改善計画
	重点目標	目標達成のための方策（取組指標）★重点	成果指標	評価	結果（成果○と課題△）	評価	コメント	次年度における改善策（案）
重点目標に対する評価	学力の向上	★児童が目標やめあてを自分の言葉で考える授業の実施 ・導入の工夫（ズレや驚き等から）	・目標やめあてを立てて、学習できる 【目標】児童評価８０％以上 教師評価７５％以上	4	○教師が前時学習を想起させたり、学習の導入で吟味した資料を提示して、事象のズレに気付かせたりすることで、児童は課題意識を持って学習に臨むことができた。 ○全学級で国語科及び算数科の学習ノートのまとめ方のモデルを共有し、児童自身が理由や根拠を入れて自分の考えを書く学習を積み重ねることができた。 ○全国学力・学習状況調査や福岡県学力調査の結果等を全職員で共有し、 天の原タイムで課題克服のための基礎問題に全学級で取り組んだ。 △家庭学習の定着度に個人差があり、意識を高めていく必要がある。	A	・学校の評価は適切である。 ・授業を参観させてもらっているが、いつも子どもたちは頑張って学習に取り組んでいると思う。 ・低学年からノートの書き方に取り組まれているので、各学年ノートを整理して書くことができているのだと感じた。 ・学力向上に取り組んであることは素晴らしいことだが、子どもが学習を「楽しい」と思って取り組むことが大事。教師の一方通行な思いや指導になれば先生方の努力が報われない。これからも子どもたちのために、授業づくりに励んで欲しい。	・明確なめあての設定と「わかった」「できた」が実感できる振り返りの設定を行い、学ぶ楽しさを実感させる。 ・天の原タイムや習熟の時間を活かし、基礎基本を徹底的に身につけさせる。 ・個に応じた学力を身につけさせるために、少人数授業や家庭学習の工夫やＩＣＴを効果的に活用する。
		★理由や根拠をもとに、自分の考えをつくることができる授業の実施 ・見通し（予想、内容、方法）の提示 ・ノート指導と評価	・理由や根拠をつけて、自分の考えを書くことができる 【目標】児童評価８０％以上 教師評価７５％以上	4		A		
		○基礎学力の定着に係る取組の実施 ・天の原タイムでの基礎問題の繰り返し ・毎週木曜日６校時の応援授業の実施 ・家庭学習強調旬間の実施（学期１回）	・単元テストでの達成 【目標】学期末に単元テスト期待得点以上達成　４学級以上 ・家庭学習の提出率 【目標】９０％以上	2		A		
	豊かな心と人間関係力の育成	★学級活動（1）の話合いの充実と実践の振り返りの実施 ・自他の考えのよさを生かす話合い ・実践後の振り返りカードの活用	・仲良く力を合わせて行動することができる 【目標】児童評価８０％以上 教師評価７５％以上 ・生活アンケート（友だちとの関係） 【目標】１．２ポイント以上	3	○学級活動（1）を主題研修とし、全学級で一年間取り組んだ。学級としての目標や課題を共有し、それに向けての自他の考えのよさを生かす話合いに取り組んだり、それを振り返ったりしたことで、児童の「力を合わせている」という意識が高まっている。 ○あいさつ強化月間の取組を中心として日々のあいさつの仕方を振り返り、「あいさつがお互いの心を和やかにする」ということを意識させていく中で、あいさつの声も大きくなってきている。	A	・学校の評価は適切である。 ・挨拶運動などに取り組んだことで、元気に挨拶をする子どもが増えてきたように感じる。そのおかげで、以前は挨拶をしなかった子どもが挨拶をするようになってきた。 ・子どもたちの挨拶の声は、学校に近づくにつれてどんどん大きくなっているように感じる。 ・「子ども放課後ふれあい広場」で、なかなか自分から挨拶できない子供も見られ、こちらから促すこともある。	・学級活動に取り組んできたことを生かし、合意形成したり、児童同士が目標を共有したりして、協力し合う良さを実感できる活動を意図的に仕組む。 ・挨拶名人などを表彰し、モデルを具体的に示し、子どもの進んで挨拶しようとする態度を育てる。
		M-HAT「あ・そ・ふ・じ・さん」の指導 あ:挨拶　そ:掃除　ふ:服装　じ:時間励行　さん:「さん」付け ★あいさつ強化月間の取組と評価 ・５月、１０月、３月（各学期１回）	・相手によく聞こえる声であいさつをすることができる 【目標】児童評価８０％以上 教師評価７５％以上	3		A		
	体力の向上	★体育学習での運動量60％以上の確保 ・主運動の時間の確保（25分～30分）	・目標達成を意識して最後まであきらめずにがんばる 【目標】児童評価８０％以上 教師評価７５％以上	4	○運動会や持久走大会等の体育的行事をはじめ一人一人が目標を立てた「目標達成カード」等を活用し、その達成度を記録しながら、あきらめずに取り組むことができた。 ○体育の学習で「３歩以上かけ足」を徹底し、きびきびした動きを意識しながら行うことができるようになっている。 ○体育の準備運動として「おおむたっ子ストレッチ」を取り入れたり、広場から校舎に向けて「バトンスロー」のコーナーを設置したりすることで、児童は楽しみながら運動に取り組んだ。	A	・学校の評価は適切である。 ・体力テストについては、やり方の要領を教えることも必要であると感じた。やり方がわかると記録が伸びることがある。コツを教えたり、掛け声をかけたり、事前に少しストレッチを入れたりなどして、体力テストに臨んでみてほしい。 ・運動会では、子どもたちがきびきびと動き、それぞれの学年の発表では、学年に応じた良さがとてもよく表れていて、感動した。子どもの頑張る姿を見ることができてうれしかった。	・体育の学習では、目標設定と、その目標達成に向けてどんな練習をするのか、最後まで頑張ってやり遂げる活動を積み上げて粘り強さを身に付けさせる。 ・体力テストでは、前年度の自己記録と比較させ、自分の目標を明確にさせたり、やり方を理解した上で取り組ませたりする。
		★敏捷性、筋持久力、投力を高める運動等の実施 ・３歩以上かけ足の徹底 ・体育学習の準備運動の工夫 →ランニング、おおむたっ子ストレッチ、バトンスロー ・２、３学期に体力テスト再チャレンジ	・きびきびした動きをする 【目標】児童評価８０％以上 教師評価７５％以上 ・体力テスト （反復横跳び、上体起こし、ボール投げ） 【目標】全国・県平均達成	3		A		
いじめ防止	認知したいじめの解消	○早期発見・早期解消の取組の実施 ・毎月の児童アンケート、教師チェック、情報交換会等 ・毎回、アンケート結果に基づく教育相談 ・関係者会議での状況・取組の共有 ○教職員のいじめに特化した研修の実施 ・職員研修（学期１回） ・いじめ防止対策委員会（年３回以上）	○認知したいじめの早期解消 【目標】４ヶ月以内の解消100％	3	○毎月の児童アンケート、教師チェックや毎学期の保護者アンケート等で児童の様子を見取り、 教育相談を行いながら、いじめの早期発見・早期解消に努めた。 ○各自が知り得た児童についての情報を毎月全職員で共有するとともに、スクールカウンセラーをはじめ専門的なアドバイスを受けながら解決に取り組んだ。	A	・学校の評価は適切である。 ・先生方が協力し合ってアンテナを張り巡らせ、子どもの心を捉えようとしているのはありがたい。 ・学校だけでいじめ防止に取り組むのではなく、家庭との共通理解と連携が大切であると感じた。	・「いじめはどこでも起こりうるもの」という認識のもとに、アンケートや教育相談を必ず実施し、専門家の助言を受けながら全職員で連携し、児童を見守る体制づくりを行う。
不登校対策	不登校児童の減少	○未然防止、早期解消の取組の実施 ・毎月の児童アンケート、毎週の欠席状況調査とその結果に基づく教育相談 ・関係者会議での状況・取組の共有	○不登校兆候児童数（15日以上） 【目標】昨年度の同じ月より減少	2	○長期化している不登校児については、関係機関と連携を行いながら、別室登校、保健室登校、時間外登校、適応教室への登校など､児童に合わせた支援を行った。 △昨年度と比較して、不登校児童も、不登校兆候児童も少し増えている。家庭と連絡を取りながら、指導に当たっている。	A	・学校の評価は適切である。 ・不登校は、学校だけでなく家庭にも原因があると思う。学校と家庭や地域など、それぞれが連携して見守る必要がある。 ・学校だけでなく、家庭との連携が大切であると感じた。	・それぞれの実態に応じて､家庭と連携を取り、関係機関に繋ぎながら、誰一人取り残すことなく、個に応じた支援を行うことができるようにする。
		○福岡アクション３等の実施の徹底 ・電話・家庭訪問での状況把握、個に応じた組織的、継続的な取組の実施	○不登校児童数（30日以上） 【目標】昨年度の同じ月より減少	2		A		
働き方改革	教職員の心身の健康維持	○毎月の時間外勤務状況の把握と４５時間を超える職員との面談	○毎月の時間外勤務時間 【目標】平均４２時間	4	○時間外勤務の平均時間は、昨年度と比べると少なくなり、業務改革の意識が高まっている。 ○行事や会議の精選等、学級事務の時間の確保に努め、時間的な余裕ができた。	A	・学校の評価は適切である。 ・子どもに笑顔で向き合えるように、無理なく取り組んでいただきたい。 ・持ち帰りの仕事がないよう、勤務時間内で時間確保してほしい。	・見通しを持った業務遂行のために、学級事務の時間の確保と、行事や会議の精選を行う。

◇　評価について　・【自　己　評　価】　４：目標達成（９０％以上）　３：ほぼ達成（７０％～９０％）　２：もう少し（６０％～７０％）　１：できていない（６０％未満）

・【学校関係者評価】　Ａ：自己評価は適切である　Ｂ：自己評価は上方修正すべきである　Ｃ：自己評価は下方修正すべきである